

ロボット・テクノロジー 関連株ファンド ーロボテックー

運用報告書（全体版） 第17期

（決算日 2024年3月13日）

（作成対象期間 2023年9月14日～2024年3月13日）

■信託期間終了日を2025年9月12日から2050年9月13日に変更しました。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
(営業日の9:00～17:00)
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2015年12月7日～2050年9月13日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ. アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）の受益証券 ロ. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	円建ての債券
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

最近5期の運用実績

決算期	基準価額			MSCI AC World指数 (税引後配当込み、円換算)		公社債 組入比率	投資信託 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
13期末(2022年3月14日)	円 15,255	円 0	% △14.8	17,449	% △ 3.2	% -	% 98.7	百万円 221,278
14期末(2022年9月13日)	16,605	0	8.8	20,328	16.5	-	99.2	242,805
15期末(2023年3月13日)	15,615	400	△ 3.6	18,856	△ 7.2	-	97.9	221,765
16期末(2023年9月13日)	17,208	600	14.0	23,033	22.2	-	97.9	229,533
17期末(2024年3月13日)	18,806	2,000	20.9	26,503	15.1	-	99.1	242,280

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCI AC World指数(税引後配当込み、円換算)は、MSCI Inc. (「MSCI」)の承諾を得て、MSCI AC World指数(税引後配当込み、米ドルベース)をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。MSCI AC World指数(税引後配当込み、米ドルベース)は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。(https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html)

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

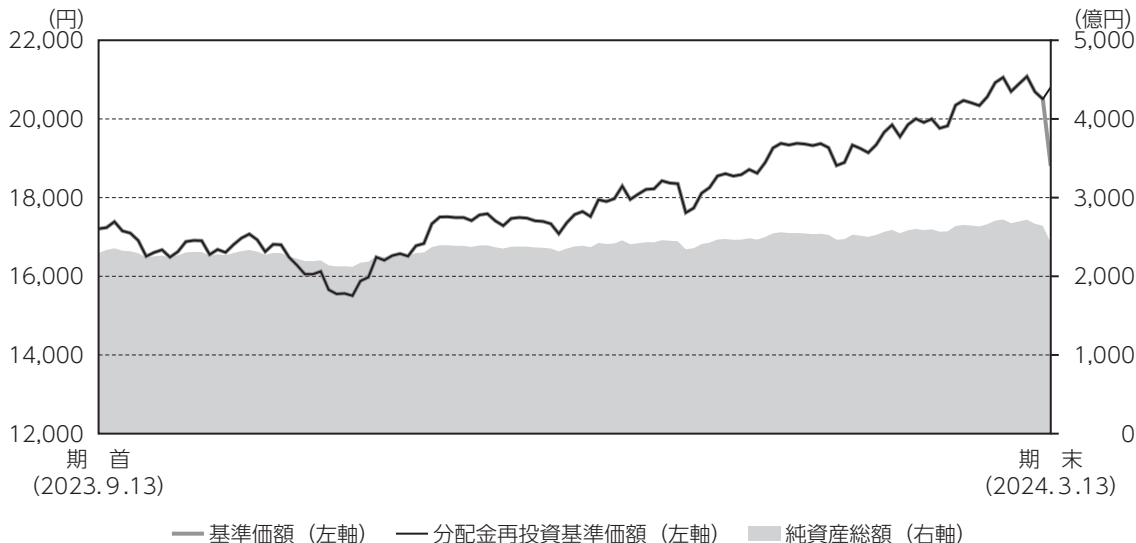
(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)および債券先物を除きます。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- * 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- * 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

期首：17,208円
 期末：18,806円（分配金2,000円）
 騰落率：20.9%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

当作成期の基準価額は、グローバル株式市況の上昇や円安がプラス要因となり、上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準 価 額		MSCI AC World指数 (税引後配当込み、円換算) (参考指数)		公 社 債 組 入 比	投 資 信 託 受 組 証 比	資 益 入 託 組 入 率
	円	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率			
(期首) 2023年 9月13日	17,208	% -	23,033	% -	% -	% -	97.9
9 月末	16,881	△ 1.9	22,622	△ 1.8	-	-	98.3
10月末	15,505	△ 9.9	21,873	△ 5.0	-	-	98.7
11月末	17,470	1.5	23,488	2.0	-	-	99.5
12月末	18,354	6.7	23,879	3.7	-	-	98.9
2024年 1 月末	19,270	12.0	25,159	9.2	-	-	99.1
2 月末	20,339	18.2	26,433	14.8	-	-	99.3
(期末) 2024年 3月13日	20,806	20.9	26,503	15.1	-	-	99.1

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

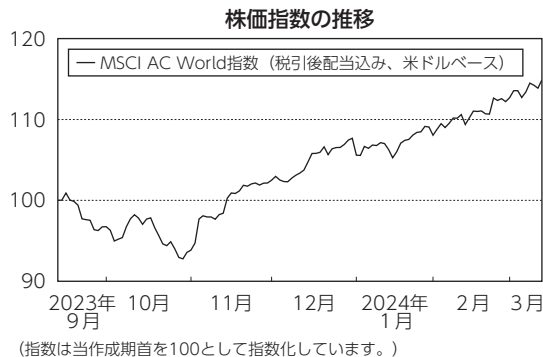
投資環境について

(2023.9.14~2024.3.13)

■グローバル株式市況

グローバル株式市況は上昇しました。

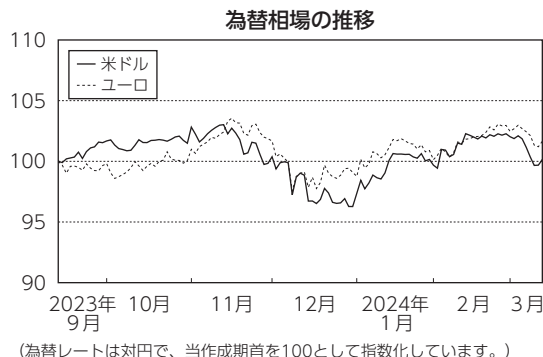
グローバル株式市況は、当作成期首より、長期金利の上昇により景気や企業業績の先行きに不透明感が漂ったことや、パレスチナ情勢の悪化などが嫌気され、2023年10月末まで下落しました。11月以降は、欧米のインフレ率が予想以上に鈍化し金利が低下したことや、F R B（連邦準備制度理事会）議長が将来の利下げについての議論を始めたことを受けて利下げ観測が高まったこと、A I（人工知能）関連の半導体関連企業が良好な決算を発表したことなどが好感され、急上昇して当作成期末を迎えました。



■為替相場（米ドル／円、ユーロ／円）

米ドル為替相場は対円で小幅に上昇（円安）しました。

米ドル為替相場は、当作成期首より、米国金利が上昇した一方で日銀は緩和的な金融政策の維持を発表したことから、上昇しました。しかし2023年11月以降は、日銀による政策修正や米国金利の大幅な低下を背景に、米ドルは対円で下落（円高）しました。2024年に入ってから、米国金利の上昇や日銀による金融政策の維持などを背景に円安米ドル高に転じ、当作成期末にかけても、日銀の副総裁がマイナス金利解除後も緩和的な金融環境を維持する見通しと発言したことなどを背景に、円安米ドル高基調となりました。

ユーロ為替相場は対円で上昇しました。

ユーロ為替相場は、当作成期首より、E C B（欧州中央銀行）が利上げ停止の可能性を示唆したことを受け、下落しました。2023年10月中旬以降は、日銀による緩和的な金融政策が下支え要因となり、ユーロは対円で大幅に上昇しました。11月半ば以降、ユーロ圏の一部の国でインフレ指標が市場予想を下振れたことや、日銀がマイナス金利を早期に解除するとの思惑から、12月上旬にかけてユーロは対円で下落しました。2024年に入ると、日銀がマイナス金利を早期に解除するとの期待が後退したこと、当作成期末にかけて円安が進行し、ユーロは対円で上昇しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

※ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）：アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転の実現を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

米国を中心に労働市場はひっ迫した状態が続いており、労働力不足と労働コストの上昇は向こう数年にわたって自動化需要の大きな原動力になると考えています。企業にとって、効率性や生産性を向上させるためにテクノロジーを導入し、プロセスを自動化させる必要性が高まっています。労働コストの上昇は、企業の自動化導入の費用対効果を高めることになるため、より多くの分野で自動化が検討されると考えられます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長をめざしてまいります。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

(2023.9.14~2024.3.13)

■当ファンド

当ファンドは、「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」と「ダイワ・マネーストック・マザーファンド」へ投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通じて、「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」を高位に組み入れました。

■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長をめざしました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやグローバス・メディカルなどの中小型株にも幅広く投資しました。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国や日本を中心に投資しました。

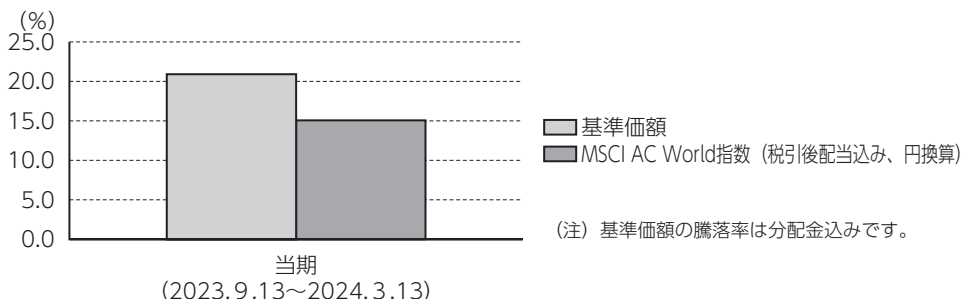
当作成期は、半導体製造装置のASMLホールディングを新規に組み入れました。また、アマゾン・ドット・コムをAI（人工知能）導入によって同社のクラウドサービスAWSの業績拡大が見込めると考え、買い増しました。一方で、中国での競争が激化しているアップルや、電気自動車（EV）に需要減速の兆しが見られるテスラの組み入れを減らしました。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金(税込み)は下記「分配原資の内訳(1万口当り)」の「当期分配金(税込み)」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程(1万口当り)」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	当期	
	2023年9月14日 ～2024年3月13日	
当期分配金(税込み)	(円)	2,000
対基準価額比率	(%)	9.61
当期の収益	(円)	2,000
当期の収益以外	(円)	-
翌期繰越分配対象額	(円)	8,806

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

■収益分配金の計算過程(1万口当り)

項目	当	期
(a) 経費控除後の配当等収益		0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓	3,547.97
(c) 収益調整金		5,082.82
(d) 分配準備積立金		2,175.49
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)		10,806.30
(f) 分配金		2,000.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)		8,806.30

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転の実現を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

当ファンドで注目する長期的な成長テーマとその投資機会は引き続き強固であると考えています。将来的な成長期待の高い、ロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長をめざします。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2023.9.14~2024.3.13)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	111円	0.615%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は18,012円です。
(投 信 会 社)	(34)	(0.191)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(74)	(0.410)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.000	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	111	0.616	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

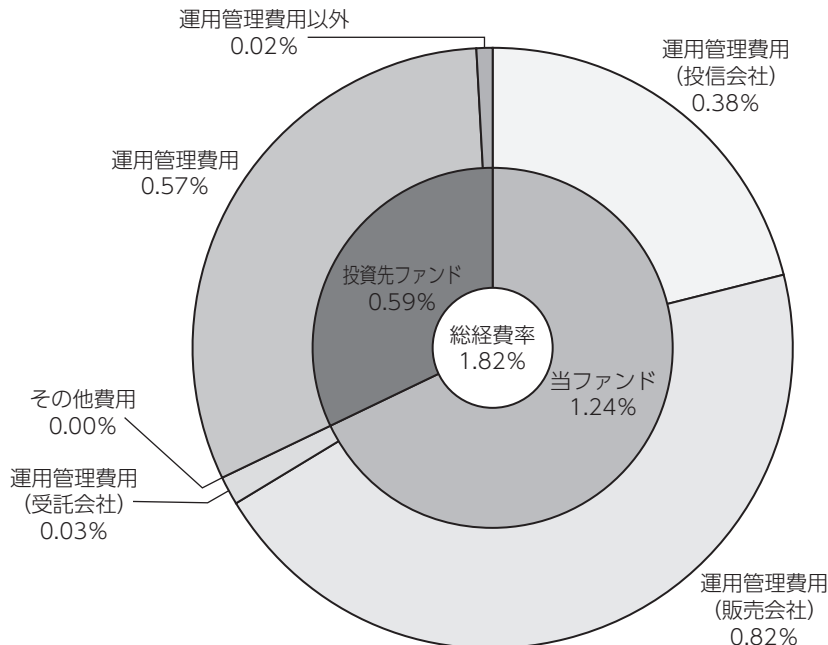
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.82%です。



総経費率 (①+②+③)	1.82%
①当ファンドの費用の比率	1.24%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.02%

(注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

(2023年9月14日から2024年3月13日まで)

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国内	アクサ I M・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)	千口 2,620,608.685	千円 7,480,000	千口 12,211,385.985	千円 41,265,000

(注1) 金額は受渡し代金。
(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
国内投資信託受益証券 アクサ I M・グローバル・ロボット 関連株式ファンド (為替ヘッジ なし) (適格機関投資家専用)	千口 68,460,046.107	千円 240,007,229	% 99.1

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。
(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	千口 947	千口 947	千円 947

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2024年3月13日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 240,007,229	% 88.7
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	947	0.0
コール・ローン等、その他	30,519,539	11.3
投資信託財産総額	270,527,716	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2024年3月13日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	270,527,716,158円
コール・ローン等	30,519,539,249
投資信託受益証券(評価額)	240,007,229,641
ダイワ・マネースtock・マザーファンド(評価額)	947,268
(B) 負債	28,247,196,371
未払収益分配金	25,765,916,425
未払解約金	999,261,315
未払信託報酬	1,480,913,685
その他未払費用	1,104,946
(C) 純資産総額(A - B)	242,280,519,787
元本	128,829,582,125
次期繰越損益金	113,450,937,662
(D) 受益権総口数	128,829,582,125口
1万口当り基準価額(C / D)	18,806円

*期首における元本額は133,388,101,649円、当作成期間中における追加設定元本額は11,154,755,985円、同解約元本額は15,713,275,509円です。

*当期末の計算口数当りの純資産額は18,806円です。

■損益の状況

当期 自2023年9月14日 至2024年3月13日

項 目	当	期
(A) 配当等収益	△	308,350円
受取利息		27,717
支払利息	△	336,067
(B) 有価証券売買損益		47,191,164,247
売買益		49,275,514,673
売買損	△	2,084,350,426
(C) 信託報酬等	△	1,482,018,631
(D) 当期損益金(A + B + C)		45,708,837,266
(E) 前期繰越損益金		28,026,153,882
(F) 追加信託差損益金		65,481,862,939
(配当等相当額)	(52,499,614,217)
(売買損益相当額)	(12,982,248,722)
(G) 合計(D + E + F)		139,216,854,087
(H) 収益分配金	△	25,765,916,425
次期繰越損益金(G + H)		113,450,937,662
追加信託差損益金		65,481,862,939
(配当等相当額)	(52,499,614,217)
(売買損益相当額)	(12,982,248,722)
分配準備積立金		47,969,383,130
繰越損益金	△	308,407

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程(総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程(総額)

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	45,708,430,841
(c) 収益調整金	65,481,862,939
(d) 分配準備積立金	28,026,868,714
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	139,217,162,494
(f) 分配金	25,765,916,425
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	113,451,246,069
(h) 受益権総口数	128,829,582,125口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ

1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)

2,000円

●<分配金再投資コース>をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

《お知らせ》

■信託期間の延長について

信託期間終了日を2025年9月12日から2050年9月13日に変更しました。

<補足情報>

当ファンド（ロボット・テクノロジー関連株ファンド（ロボテック））が投資対象としている「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の決算日（2023年12月11日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2024年3月13日）現在におけるダイワ・マネースtock・マザーファンドの組入資産の内容等を掲載いたしました。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンドの主要な売買銘柄

2023年9月14日～2024年3月13日における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

2024年3月13日現在、有価証券等の組み入れはありません。

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

運用報告書 第14期 (決算日 2023年12月11日)

(作成対象期間 2022年12月10日～2023年12月11日)

ダイワ・マネースtock・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

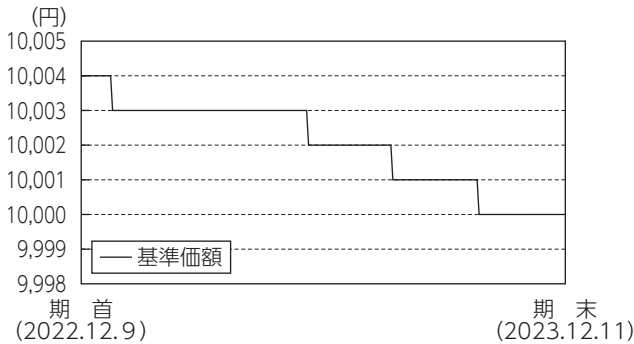
運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	
(期首)2022年12月9日	円	%	%
	10,004	-	-
12月末	10,004	0.0	-
2023年1月末	10,003	△0.0	-
2月末	10,003	△0.0	-
3月末	10,003	△0.0	-
4月末	10,003	△0.0	-
5月末	10,003	△0.0	-
6月末	10,002	△0.0	-
7月末	10,002	△0.0	-
8月末	10,001	△0.0	-
9月末	10,001	△0.0	-
10月末	10,000	△0.0	-
11月末	10,000	△0.0	-
(期末)2023年12月11日	10,000	△0.0	-

(注1) 騰落率は期首比。
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,004円 期末：10,000円 騰落率：△0.0%

【基準価額の主な変動要因】

コール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用	-
合 計	-

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

当作成期中における売買および取引はありません。

■主要な売買銘柄

当作成期中における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2023年12月11日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	224,869,425	100.0
投資信託財産総額	224,869,425	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2023年12月11日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	224,869,425,628円
コール・ローン等	224,869,425,628
(B) 負債	1,500,000,000
未払解約金	1,500,000,000
(C) 純資産総額(A - B)	223,369,425,628
元本	223,366,515,143
次期繰越損益金	2,910,485
(D) 受益権総口数	223,366,515,143口
1万口当り基準価額(C/D)	10,000円

* 期首における元本額は159,095,941,234円、当作成期間中における追加設定元本額は314,669,316,126円、同解約元本額は250,398,742,217円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：

ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック	947,268円
ダイワ/ミレアセット・インド株式ファンド - インドの匠	29,910,270円
ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジあり)	998円
ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジなし)	998円
US短期ハイ・イールド社債ファンド (為替ヘッジあり/毎月決算型)	102,434円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック (為替ヘッジあり)	39,849円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド (年1回決算型)	3,985円
- ロボテック (年1回) - (為替ヘッジあり)	
i Freeレバレッジ S&P500	8,578,400,572円
i Freeレバレッジ NASDAQ100	136,597,495,537円
クリーンテック株ファンド (資産成長型)	998,802円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック (毎月決算/予想分配金提示型)	999円
世界インフラ戦略ファンド (為替ヘッジなし/資産成長型)	499,501円
i FreeETF 日経平均レバレッジ・インデックス	3,766,275,979円
i FreeETF 日経平均ダブルインバース・インデックス	7,383,524,817円
i FreeETF TOPIXレバレッジ (2倍) 指数	1,207,970,593円
i FreeETF TOPIXダブルインバース (-2倍) 指数	926,253,680円
i FreeETF 日経平均インバース・インデックス	8,758,653,432円
i FreeETF TOPIXインバース (-1倍) 指数	11,471,375,420円
i FreeETF JPX日経400レバレッジ・インデックス	788,263,236円
i FreeETF JPX日経400インバース・インデックス	114,002,117円
i FreeETF JPX日経400ダブルインバース・インデックス	78,926,070円
i FreeETF S&P500レバレッジ	556,085,029円
i FreeETF S&P500インバース	2,883,612,458円
先進国トータルリターン戦略ファンド (リス抑制型/適格機関投資家専用)	207,414,601円
ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド・マネポートフォリオ - SLトレード	4,992,083円
ブルベア・マネー・ポートフォリオ6	25,460,730,955円
ブル3倍日本株ポートフォリオ6	11,487,636,953円
ベア2倍日本株ポートフォリオ6	3,017,601,716円
ダイワ/ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ	44,637,919円
ダイワUS短期ハイ・イールド社債ファンド (為替ヘッジあり/年1回決算型)	9,957円
ダイワ米国バンクローン・オープン (為替ヘッジあり)	997円
ダイワ米国バンクローン・オープン (為替ヘッジなし)	997円
ダイワ/ミレアセット亜細亜株式ファンド	4,148円
通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) 米ドル・コース	10,833円
通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) ブラジル・リアル・コース	10,788円
通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) 通貨セレクト・コース	12,751円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド (年1回決算型) - ロボテック (年1回)	100,588円
ダイワ/ミレアセット・アジア・セクターリーダー株ファンド	5,813円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,000円です。

■損益の状況

当期 自2022年12月10日 至2023年12月11日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△69,335,817円
支払利息	△69,335,817
(B) 当期損益金(A)	△69,335,817
(C) 前期繰越損益金	62,057,963
(D) 解約差損益金	△51,876,027
(E) 追加信託差損益金	62,064,366
(F) 合計(B + C + D + E)	2,910,485
次期繰越損益金(F)	2,910,485

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2050年9月12日まで	
運用方針	アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド（以下、「マザーファンド」）の受益証券を通じて、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券
	マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
ベビーファンドの運用方法	<ol style="list-style-type: none"> 主として、マザーファンドの受益証券に投資することにより、信託財産の成長を目指して運用を行います。 マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位に維持します。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。 	
マザーファンドの運用方法	<ol style="list-style-type: none"> 技術革新が進展することで、ロボットおよび自動システムならびにセンサーシステムが産業プロセス、交通、ヘルスケアおよびコンシューマー向けアプリケーションに、より一層統合されることを目指す分野に着目し、世界中の主としてロボット関連および自動システムに関する調査、開発、デザインおよび製作に従事する企業に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。 ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。 <ol style="list-style-type: none"> 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式から、ロボット・テクノロジーに関連する成長テーマを特定し、金融・経済情勢などを勘案することで長期にわたり成長の可能性を有する企業群を投資対象銘柄とします。 投資対象銘柄の中から、中長期的にロボット関連事業が業績に対して大きな影響を有することが期待される企業に着目し、高度な技術力、強力な経営陣、価格決定力および業績向上修正の可能性などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。 選定した組入候補銘柄から、アクサ・インベストメント・マネージャーズの企業調査機能などを活用し、中長期的な業績拡大によって株価上昇が見込まれる銘柄を選択します。また、株価の上昇期待度、下落の余地やバリュエーションなどを考慮して組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズUKリミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。 	
組入制限	当ファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	無制限
分配方針	<p>毎決算時に原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①分配対象額の範囲は繰越分を含めた利子、配当等収益と売買益（繰越欠損補填後、評価損益を含む）等の金額とします。 ②分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないこともあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 ③留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 	

アクサ IM・グローバル・ ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)

追加型投信／海外／株式

運用報告書（全体版）

第16期（決算日 2024年2月13日）

受益者の皆様へ

平素は格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」は、このたび第16期の決算を行いました。当ファンドは、アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンドの受益証券を通じて、日本を含む世界のロボット関連株式に投資することにより、信託財産の成長を目指します。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

引き続き一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
東京都港区白金1-17-3 NBFプラチナタワー14階
<http://www.axa-im.co.jp/>

《当運用報告書の記載内容に関する問い合わせ先》
電話番号：03-5447-3160
受付時間：9：00～17：00(土日祭日を除く)

■最近5期の運用実績

決算期	基準価額			株式組入比率	純資産総額
	(分配落)	税金 込 分 配 金	期 騰 落 中 率		
	円	円	%	%	百万円
12期末(2022年2月14日)	25,273	0	△ 5.3	97.1	256,918
13期末(2022年8月15日)	26,053	0	3.1	95.5	268,374
14期末(2023年2月13日)	25,522	0	△ 2.0	95.4	252,709
15期末(2023年8月14日)	28,828	0	13.0	97.2	259,767
16期末(2024年2月13日)	33,413	0	15.9	97.6	280,061

(注1) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

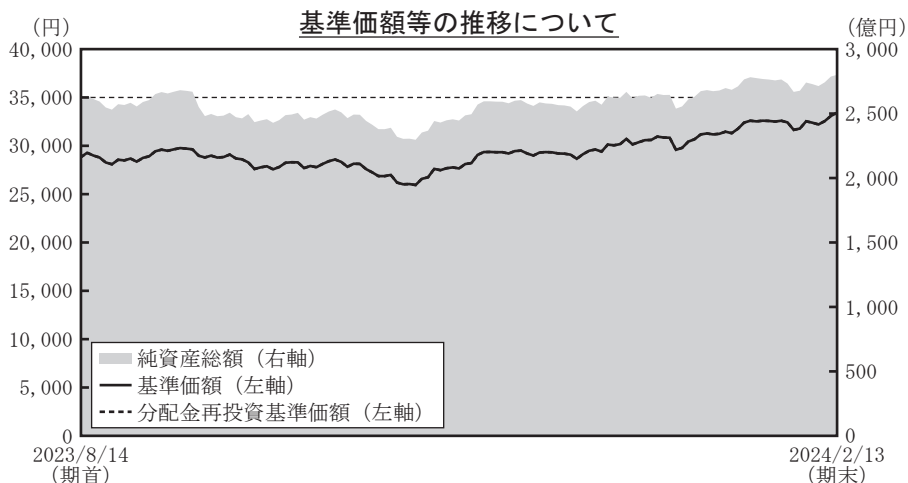
年 月 日	基準価額		株式組入比率
	円	騰落率 %	
(期首) 2023年8月14日	28,828	—	97.2
8月末	29,602	2.7	97.1
9月末	28,244	△ 2.0	96.3
10月末	25,945	△10.0	96.4
11月末	29,306	1.7	97.0
12月末	30,831	6.9	96.6
2024年1月末	32,420	12.5	98.0
(期末) 2024年2月13日	33,413	15.9	97.6

(注1) 基準価額は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み、騰落率は期首比です。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2023年8月15日～2024年2月13日）



期 首：28,828円

期 末：33,413円（既払分配金（税込み）：0円）

騰 落 率： 15.9%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当期は、保有銘柄の株価が全般的に上昇したことがプラス要因となった他、為替市場で主要通貨に対して円安が進行したこともプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル株式市場は、上昇しました。期初よりマクロ経済の不透明感が投資家心理に影響したことから下落し、9月も米連邦準備理事会（FRB）の「タカ派的な利上げ一時停止」の発表により下押し圧力が強まったことや、投資家のソフトランディングを軸としたシナリオが楽観的すぎるように見え始めたことが要因となり続落しました。10月に入るとイスラエルとハマスの対立が再燃し、中東の緊張が極度に高まったことや、中国の需要減による日本の経済活動の低下など不確実な状況の中で引き続き下落しましたが、11月に大きく反発した後、12月も堅調なパフォーマンスを持続しました。インフレ率の減速、FRBの利上げ終了及び2024年前半における利下げ開始への期待感が市場を押し上げました。2024年1月以降も良好なマクロ経済統計の発表および2023年10～12月期の好調な決算発表が好感され、特に米国、欧州、日本で高値を更新しました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の145円台から期末には149円台となり、ユーロ・円レートは期初の158円台から期末には160円台となりました。

当期は、米ドルは米国長期金利が上昇したことやFRBによる早期の利下げ観測が後退したことなどから、ユーロはECBが高金利を維持する可能性があることから米ドル・ユーロに対して円安が進行しました。

【ポートフォリオについて】

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れました。

○アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長を目指しました。具体的には、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体企業やソフトウェア企業などの銘柄を組み入れました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやグローバス・メディカルなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資をしています。

期中は、オランダの半導体製造向けリソグラフィ装置のリーディングサプライヤーのASMLホールディングを新規に組入れました。また、米国のアマゾン・ドット・コムを、同社のクラウドサービスAWSがAIの導入によって売上の拡大が見込まれることから、買い増しました。一方で、米国のアップルを中国での競争が激化していることから、米国のテスラを電気自動車（EV）の需要減速の兆し（特にテスラの主戦場である高級価格帯において）が見られることから組入を減らしました。

【当ファンドのベンチマークの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

【分配金】

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたします。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

		第16期
		2023年8月15日～2024年2月13日
当期分配金		—
	（対基準価額比率）	—%
	当期の収益	—
	当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額		23,510

（注1）「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

（注2）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注3）「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を切捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■今後の運用方針

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れる方針です。

○アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

2023年の株式市場は、金利上昇が一服したことが支えとなりました。一方、米国やその他の主要国でインフレ率は依然として中央銀行の目標を上回っています。米国の経済指標は予想よりも底堅く推移しており、労働市場も比較的堅調さを保っていることから、米経済のソフトランディング（大きく後退することなく景気が減速すること）の可能性は高まっていると見られます。引き続き、労働市場では逼迫した状態が続いています。例えば、製造業や倉庫業では、労働コスト上昇や労働力不足に直面して、企業は効率性と生産性を向上させるため、テクノロジーを導入し、プロセスを自動化させる必要性に迫られています。労働力不足と賃金インフレは向こう数年にわたって自動化需要の大きな原動力になると考えています。また、米国はインフラ支出と設備投資によって国内の製造業を再活性化させようとしています。米国製造業向けにより多くの財政支出をし、主要なテクノロジーの保護に動き出しました。企業は国内の生産拠点へ再び投資するようになり、これによって技術の洗練、ロボット化・自動化を促しています。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長を目指します。

■1万口当たりの費用明細（2023年8月15日～2024年2月13日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	85円	0.289%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は29,370円です。
（投 信 会 社）	(81)	(0.275)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
（販 売 会 社）	(1)	(0.003)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(3)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売 買 委 託 手 数 料	2	0.005	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	(2)	(0.005)	
そ の 他 費 用	2	0.008	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(2)	(0.007)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	89	0.302	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買及び取引の状況（2023年8月15日～2024年2月13日）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	3,119,241	7,500,000	10,763,935	27,590,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買比率（2023年8月15日～2024年2月13日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	65,075,571千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	260,417,309千円
(c) 売 買 高 比 率(a)/(b)	0.24

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2023年8月15日～2024年2月13日）

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2023年8月15日～2024年2月13日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2024年2月13日現在）

親投資信託残高

種 類	期 首 (前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	106,268,432	98,623,739	279,953,345

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

（2024年2月13日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	279,953,345	99.2
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	2,229,955	0.8
投 資 信 託 財 産 総 額	282,183,301	100.0

（注1）評価額の単位未満は切捨て。

（注2）アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建て資産（250,517,412千円）の投資信託財産総額（294,599,117千円）に対する比率は、85.0%です。

（注3）外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=149.39円、1台湾ドル=4.761円、1ノルウェークロネ=14.22円、1ユーロ=160.92円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2024年2月13日現在）

項 目	当 期 末
(A) 資 産	282,183,301,819円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	89,955,970
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド(評価額)	279,953,345,849
未 収 入 金	2,140,000,000
(B) 負 債	2,121,693,616
未 払 解 約 金	1,379,999,998
未 払 信 託 報 酬	741,122,780
そ の 他 未 払 費 用	570,838
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	280,061,608,203
元 本	83,817,603,845
次 期 繰 越 損 益 金	196,244,004,358
(D) 受 益 権 総 口 数	83,817,603,845口
1万口当たり基準価額(C/D)	33,413円

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 期首元本額 | 90,108,141,237円 |
| 期中追加設定元本額 | 2,792,662,805円 |
| 期中一部解約元本額 | 9,083,200,197円 |
| 2. 1口当たり純資産額 | 3,3413円 |

■損益の状況

当期（自 2023年8月15日 至 2024年2月13日）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 33,055円
受 取 利 息	1,430
支 払 利 息	△ 34,485
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	39,223,483,431
売 買 益	40,471,045,612
売 買 損	△ 1,247,562,181
(C) 信 託 報 酬 等	△ 741,710,721
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	38,481,739,655
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	111,142,479,666
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	46,619,785,037
(配 当 等 相 当 額)	(47,425,128,911)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 805,343,874)
(G) 計 (D+E+F)	196,244,004,358
次 期 繰 越 損 益 金(G)	196,244,004,358
追 加 信 託 差 損 益 金	46,619,785,037
(配 当 等 相 当 額)	(47,432,678,400)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 812,893,363)
分 配 準 備 積 立 金	149,624,219,321

（注1）損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

（注2）損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

（注3）損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

（注4）計算期間末における費用控除後の配当等収益（828,910,639円）、費用控除後の有価証券等損益額（37,652,829,016円）、信託約款に規定する収益調整金（47,432,678,400円）および分配準備積立金（111,142,479,666円）より分配対象収益は197,056,897,721円（10,000口当たり23,510.20円）ですが、当期に分配した金額はありません。

当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
運用方法	<ol style="list-style-type: none"> 技術革新が進展することで、ロボットおよび自動システムならびにセンサーシステムが産業プロセス、交通、ヘルスケアおよび消費者向けアプリケーションに、より一層統合されることを目指す分野に着目し、世界中の主としてロボット関連および自動システムに関する調査、開発、デザインおよび製作に従事する企業に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。 ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。 <ol style="list-style-type: none"> 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式から、ロボット・テクノロジーに関連する成長テーマを特定し、金融・経済情勢などを勘案することで長期にわたり成長の可能性を有する企業群を投資対象銘柄とします。 投資対象銘柄の中から、中長期的にロボット関連事業が業績に対して大きな影響を有することが期待される企業に着目し、高度な技術力、強力な経営陣、価格決定力および業績上方修正の可能性などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。 選定した組入候補銘柄から、アクサ・インベストメント・マネージャーズの企業調査機能などを活用し、中長期的な業績拡大によって株価上昇が見込まれる銘柄を選択します。また、株価の上昇期待度、下落の余地やバリュエーションなどを考慮して組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズUKリミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。
株式組入制限	無制限

アクサ IM・グローバル・ ロボット関連株式マザーファンド

運用報告書

第8期（決算日：2023年8月14日）

（計算期間 2022年8月16日～2023年8月14日）

■最近5期の運用実績

決算期	基準 額	騰落率		株組 入比率	純資 産額
		期騰	中率		
	円	%		%	百万円
4期末(2019年8月13日)	11,155	△	5.9	98.6	298,397
5期末(2020年8月13日)	16,315		46.3	97.0	262,542
6期末(2021年8月13日)	22,368		37.1	97.9	299,321
7期末(2022年8月15日)	21,962	△	1.8	95.5	281,351
8期末(2023年8月14日)	24,434		11.3	97.2	272,244

(注1) 基準価額は1万円当たり。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

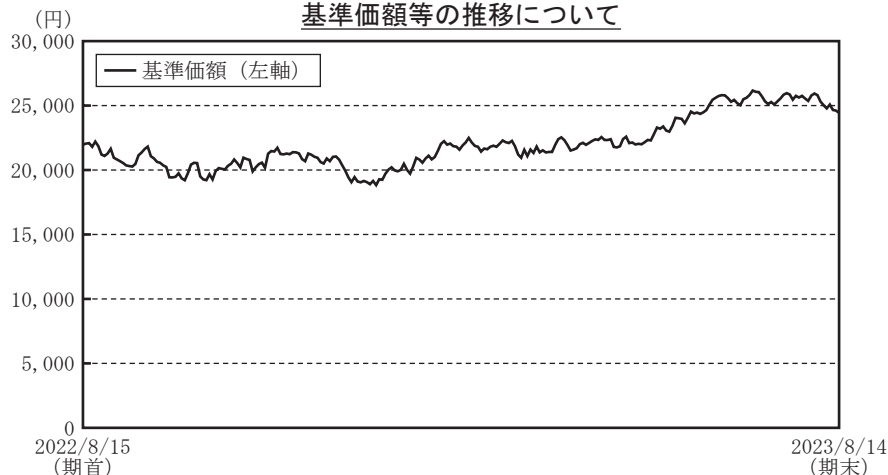
年 月 日	基準 額	騰落率		株組 入比率
		騰	落率	
(期首) 2022年8月15日	円 21,962	%		%
8月末	20,689	△	5.8	94.8
9月末	19,352	△	11.9	94.5
10月末	20,958	△	4.6	96.8
11月末	20,684	△	5.8	95.4
12月末	19,153	△	12.8	95.1
2023年1月末	20,825	△	5.2	94.7
2月末	21,807	△	0.7	95.2
3月末	22,392		2.0	96.0
4月末	21,843	△	0.5	95.9
5月末	23,968		9.1	97.0
6月末	25,821		17.6	97.3
7月末	25,775		17.4	96.6
(期末) 2023年8月14日	円 24,434		11.3	97.2

(注1) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2022年8月16日～2023年8月14日）

基準価額等の推移について



【基準価額の主な変動要因】

当期は、米国などの保有銘柄の株価が上昇したことがプラス要因となった他、為替市場で主要通貨に対して円安が進行したこともプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル株式市場は、上昇しました。期初よりエネルギー価格高騰や幅広い物価上昇による消費減退懸念から、マクロ経済の先行きに対する不透明感が市場センチメントを支配して、株価は下落しました。9月も米連邦準備制度理事会（FRB）が6月、7月に続いて3回連続で0.75%の大幅利上げを実施したことを受けて、引き続き下落しました。10月に入ると一転して株価は反発し、11月の7-9月期の企業決算では、市場全体で約50%の企業がアナリストの業績予想を上回り、株価は上昇しました。12月に入ると前月の上昇から反落しましたが、2023年に入ると中国の経済再開が急速に進み景気回復への期待が高まったことや、欧米経済のソフトランディング（景気が急激に後退することなく緩やかに減速すること）への可能性が高まっていることを示すデータが相次いだことで株式市場は活気づき再び上昇基調になりました。3月には米テクノロジー企業への融資で知られるシリコンバレーバンク（SVB）が経営破綻した影響を受けて、株価は大きく下落した場面も見られたものの月末にかけて上昇しました。4月に入ると銀行システムに対する不安や米国の債務上限問題が市場参加者にとって新たな懸念材料となりましたが、2023年1-3月期の企業決算発表が概ね良好な結果となり、引き続き上昇しました。6月には米国債務上限問題の解決、銀行経営危機の収束、米国の利上げ停止（あるいは一時停止）、底堅い経済指標や良好な4-6月期の企業決算などの好材料が相まって当月の株式市場を押し上げました。7月以降も米国をはじめとして各国でインフレ率の低下傾向が続いていることが市場で好感されたことや、米国経済のソフトランディング期待が高まったことから堅調に推移して、年初からの上昇幅を拡大しました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の133円台から期末には145円台となり、ユーロ・円レートは期初の135円台から期末には158円台となりました。

当期は、米ドルは日米金利差が意識されたことや、2023年4-6月（第2四半期）実質国内総生産（GDP）成長率（速報値）が市場予想（1.8%増）を上回ったことから、ユーロはインフレ圧力が続く中、欧州中央銀行（ECB）が7月に9会合連続で利上げを決定し、金融引き締め姿勢を継続する可能性があることなどから米ドル・ユーロに対して円安が進行しました。

【ポートフォリオについて】

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長を目指しました。具体的には、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体企業やソフトウェア企業などの銘柄を組み入れました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやグローバス・メディカルなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資をしています。

期中は、株価が割安な水準にあった日本の資本財企業で産業自動化ビジネスに強みを持つ三菱電機や、溶接・切断技術のスペシャリストで、顧客に自動化ソリューションを提供することに特に注力している米国のリンカーン・エレクトリック・ホールディングズと半導体製造用機器・サービス・ソフトウェアを提供している米国のアプライド・マテリアルズを新規に組み入れました。また、また、仙骨神経刺激装置を手掛ける米国のアクソニクスを売上の大幅な伸び、アナリスト予想を上回る収益の改善を発表したことから、買い増ししました。一方で、倉庫自動化の需要が一時的に減速する可能性を考慮して米国のコグネックスを一部売却し、ジョンソン・エンド・ジョンソンにより約50%のプレミアム（発表前の株価対比）で買収されると発表されたのを受けて米国のヘルステック企業アビオメッドを全売却しました。

【当ファンドのベンチマークとの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

【今後の運用方針】

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

労働市場では逼迫した状態が続いています。例えば、製造業や倉庫業では、労働コスト上昇や労働力不足に直面して、企業は効率性と生産性を向上させるため、テクノロジーを導入し、プロセスを自動化させる必要性に迫られています。労働力不足と賃金インフレは向こう数年にわたって自動化需要の大きな原動力になると考えています。また、米国はインフラ支出と設備投資によって国内の製造業を再活性化させようとしています。米国製造業向けにより多くの財政支出をし、主要なテクノロジーの保護に動き出しました。企業は国内の生産拠点へ再び投資するようになり、これによって技術の洗練、ロボット化・自動化を促しています。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長を目指します。

■ 1万口当たりの費用明細 (2022年8月16日～2023年8月14日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
売買委託手数料 (株式)	3円 (3)	0.011% (0.011)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
その他費用 (その他)	3 (3)	0.013 (0.013)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
合計	5	0.025	

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。期中の平均基準価額は22,010円です。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 売買及び取引の状況 (2022年8月16日～2023年8月14日)

株式

		買付		売付	
		株数	金額	株数	金額
国内	日本	千株 3,108 (2,300)	千円 6,272,705 ()	千株 1,112	千円 7,162,401
		百株 24,111 (227)	千米ドル 249,714 ()	百株 48,889	千米ドル 426,300
外国	台湾	1,490	千台湾ドル 70,395	3,950	千台湾ドル 205,120
	イギリス	901	千英ポンド 440	22,184	千英ポンド 21,716
	ノルウェー	37,389	千ノルウェークローネ 71,429	10,025	千ノルウェークローネ 22,266
	ユーロ		千ユーロ		千ユーロ
	フランス	154	2,187	326	4,968
	ドイツ	3,244	13,985	4,950	22,358
	その他	2,894	1,001	6,120	2,002

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) ()内は増資割当、株式転換・合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 (2022年8月16日～2023年8月14日)

項目	当期
(a) 期中の株式売買金額	120,080,839千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	254,549,752千円
(c) 売買高比率(a)／(b)	0.47

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄 (2022年8月16日～2023年8月14日)

買		付		売		付	
銘柄	株数	金額	平均単価	銘柄	株数	金額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
三菱電機	2,820	4,056,397	1,438	NXP SEMICONDUCTORS NV	256	5,852,874	22,860
APPLIED MATERIALS INC	167	3,272,120	19,536	ABIOMED INC	80	4,227,211	52,655
ZEBRA TECHNOLOGIES CORP-CL A	71	2,705,441	37,779	ON SEMICONDUCTOR CORPORATION	386	3,900,685	10,104
NXP SEMICONDUCTORS NV	90	2,518,563	27,910	NVIDIA CORP	102	3,882,098	37,723
TESLA, INC.	66	2,198,671	33,230	QUALCOMM INC	198	3,211,312	16,161
GXO LOGISTICS INC	287	2,105,223	7,311	SILICON LABORATORIES INC	147	3,109,023	21,090
ASPEN TECHNOLOGY INC	69	1,782,620	25,810	TEXAS INSTRUMENTS INC	120	3,070,921	25,501
DEXCOM INC	87	1,432,229	16,295	ADVANCED MICRO DEVICES	222	3,005,717	13,499
AXONICS MODULATION TECHNOLOG	175	1,429,425	8,134	WOLFSPEED INC	349	2,886,236	8,247
LINCOLN ELECTRIC HOLDINGS	58	1,405,621	24,045	AVEVA GROUP PLC	462	2,299,970	4,972

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等 (2022年8月16日～2023年8月14日)

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況 (2022年8月16日～2023年8月14日)

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細 (2023年8月14日現在)

(1) 国内株式

銘柄	前期末	当期末	
	株数	評価額	
	株数	株数	金額
機械 (29.4%)	千株	千株	千円
ナブテスコ	903	913	2,501,253
SMC	76	71	4,988,718
ダイフク	521	1,470	3,985,132
電気機器 (70.6%)			
三菱電機	—	2,533	4,685,893
安川電機	825	775	4,439,534
ニデック	315	—	—
オムロン	472	444	3,108,700
キーエンス	161	152	9,043,866
ファナック	327	1,539	6,314,208
合計	株数・金額	株数	金額
	3,604	7,900	39,067,306
	銘柄数<比率>	8	<14.4%>

(注1) 銘柄欄の()内は国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注2) 合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切捨て。

(2) 外国株式

銘柄	前期末	当 期 末		業 種 等		
	株 数	株 数	評 価 額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
	百株	百株	千米ドル	千円		
(アメリカ)						
NXP SEMICONDUCTORS NV	2,450	792	16,179	2,347,759	半導体・半導体製造装置	
KORNIT DIGITAL LTD	2,802	4,729	10,878	1,578,571	資本財	
ABIOMED INC	792	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス	
ADVANCED MICRO DEVICES	4,689	3,574	38,449	5,579,422	半導体・半導体製造装置	
APTIV PLC	3,525	3,312	32,695	4,744,438	自動車・自動車部品	
ALPHABET INC-CL C	5,296	4,267	55,546	8,060,300	メディア・娯楽	
AMAZON.COM INC.	4,391	4,451	61,618	8,941,496	一般消費財・サービス流通・小売り	
ANSYS INC	1,214	1,140	34,367	4,987,061	ソフトウェア・サービス	
APPLE INC.	2,717	2,216	39,411	5,719,042	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
APPLIED MATERIALS INC	—	1,623	22,539	3,270,762	半導体・半導体製造装置	
AUTODESK INC	2,422	1,965	40,878	5,931,877	ソフトウェア・サービス	
AXONICS MODULATION TECHNOLOG	6,112	7,062	41,335	5,998,214	ヘルスケア機器・サービス	
BENTLEY SYSTEMS INC-CLASS B	5,631	5,824	27,236	3,952,238	ソフトウェア・サービス	
CADENCE DESIGN SYS INC	3,095	2,908	65,750	9,541,076	ソフトウェア・サービス	
COGNEX CORP	7,629	5,969	29,155	4,230,687	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
CONMED CORP	2,729	3,032	34,244	4,969,278	ヘルスケア機器・サービス	
ALTAIR ENGINEERING INC - A	4,315	4,837	30,298	4,396,562	ソフトウェア・サービス	
DEXCOM INC	6,013	6,178	69,008	10,013,848	ヘルスケア機器・サービス	
ASPEN TECHNOLOGY INC	772	1,241	23,556	3,418,218	ソフトウェア・サービス	
GXO LOGISTICS INC	2,455	4,860	30,764	4,464,190	運輸	
GLOBUS MEDICAL INC-A	5,023	4,720	26,923	3,906,936	ヘルスケア機器・サービス	
ILLUMINA INC	711	787	14,221	2,063,650	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
INTUITIVE SURGICAL INC	2,838	2,918	88,870	12,895,966	ヘルスケア機器・サービス	
LINCOLN ELECTRIC HOLDINGS	—	559	10,597	1,537,844	資本財	
LUMENTUM HOLDINGS INC	2,548	—	—	—	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
MICROCHIP TECHNOLOGY INC	5,519	5,186	42,410	6,154,259	半導体・半導体製造装置	
NOVANTA INC	2,038	1,915	29,365	4,261,254	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
NVIDIA CORP	2,551	1,862	76,077	11,039,580	半導体・半導体製造装置	
ON SEMICONDUCTOR CORPORATION	7,677	4,102	38,795	5,629,621	半導体・半導体製造装置	
QUALCOMM INC	5,246	3,524	40,389	5,860,950	半導体・半導体製造装置	
SILICON LABORATORIES INC	4,345	3,071	41,980	6,091,850	半導体・半導体製造装置	
TANDEM DIABETES CARE INC	983	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス	
TERADYNE INC	5,224	4,696	47,773	6,932,386	半導体・半導体製造装置	
TESLA, INC.	71	868	21,085	3,059,725	自動車・自動車部品	
TEXAS INSTRUMENTS INC	1,142	—	—	—	半導体・半導体製造装置	
THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	995	935	50,884	7,383,808	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
TRIMBLE INC	6,559	6,163	34,262	4,971,767	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
VIAVI SOLUTIONS INC	11,183	—	—	—	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
WOLFSPEED INC	2,628	—	—	—	半導体・半導体製造装置	
ZEBRA TECHNOLOGIES CORP-CL A	—	661	17,335	2,515,623	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
AMBARELLA INC	2,833	2,662	19,139	2,777,394	半導体・半導体製造装置	
小 計	株 数	金 額	139,173	114,626	1,304,029	189,227,670
	銘柄	数<比 率>	38	35	—	<69.5%>

銘柄		前期末	当 期 末		業 種 等	
		株 数	株 数	外 貨 建 金 額		評 価 額
				千円	千円	
(台湾) TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFACTURING		百株 27,630	百株 25,170	千台湾ドル 1,374,282	千円 6,265,901	半導体・半導体製造装置
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	27,630 1	25,170 1	1,374,282 -	6,265,901 <2.3%>	
(イギリス) OCADO GROUP PLC AVEVA GROUP PLC		16,657 4,625	- -	千英ポンド -	- -	生活必需品流通・小売り ソフトウェア・サービス
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	21,282 2	- -	- -	- <->	
(ノルウェー) AUTOSTORE HOLDINGS LTD-W/I		57,296	84,660	千ノルウェー クローネ 186,422	2,589,410	資本財
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	57,296 1	84,660 1	186,422 -	2,589,410 <1.0%>	
(フランス) SCHNEIDER ELECTRIC SE		2,852	2,680	千ユーロ 42,711	6,778,701	資本財
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	2,852 1	2,680 1	42,711 -	6,778,701 <2.5%>	
(ドイツ) SIEMENS AG INFINEON TECHNOLOGIES AG KION GROUP AG		4,611 12,702 4,989	4,333 11,015 5,248	千ユーロ 59,545 36,743 19,341	9,450,438 5,831,613 3,069,677	資本財 半導体・半導体製造装置 資本財
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	22,303 3	20,597 3	115,630 -	18,351,729 <6.7%>	
(その他) MAREL HF		53,451	50,224	千ユーロ 15,117	2,399,325	資本財
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	53,451 1	50,224 1	15,117 -	2,399,325 <0.9%>	
ユ ー ロ 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	78,607 5	73,503 5	173,459 -	27,529,756 <10.1%>	
合 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	323,994 47	297,960 42	- -	225,612,739 <82.9%>	

(注1) 邦貨換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 小計欄の< >内は純資産総額に対する各通貨別評価額の比率。

(注3) 合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注4) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2023年8月14日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株 式	264,680,045	96.9
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	8,534,870	3.1
投 資 信 託 財 産 総 額	273,214,916	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 期末における外貨建て資産(231,258,177千円)の投資信託財産総額(273,214,916千円)に対する比率は、84.6%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=145.11円、1台湾ドル=4.559円、1ノルウェークローネ=13.89円、1ユーロ=158.71円です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2023年8月14日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	273,214,916,172円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	8,490,874,354
株 式(評価額)	264,680,045,660
未 収 配 当 金	43,996,158
(B) 負 債	970,086,202
未 払 解 約 金	970,000,000
そ の 他 未 払 費 用	86,202
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	272,244,829,970
元 本	111,419,293,139
次 期 繰 越 損 益 金	160,825,536,831
(D) 受 益 権 総 口 数	111,419,293,139口
1 万 口 当 ち り 基 準 価 額 (C/D)	24,434円

1. 期首元本額	128,106,556,944円
期中追加設定元本額	4,379,470,444円
期中一部解約元本額	21,066,734,249円
2. 1口当たりの純資産額	2,4434円
3. 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額	
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)	106,268,432,814円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)	5,150,860,325円
期末元本合計	111,419,293,139円

■損益の状況

(2022年8月16日～2023年8月14日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	1,990,085,861円
受 取 配 当 金	1,708,587,813
受 取 利 息	283,746,080
そ の 他 収 益 金	196,845
支 払 利 息	△ 2,444,877
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	27,456,352,539
売 買 益	52,059,949,537
売 買 損	△ 24,603,596,998
(C) そ の 他 費 用	△ 37,338,039
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	29,409,100,361
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	153,245,172,665
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 26,484,265,751
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	4,655,529,556
(H) 計 (D+E+F+G)	160,825,536,831
次 期 繰 越 損 益 金 (H)	160,825,536,831

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注3) 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。